

## 宇宙サロン「宇宙技術と自然災害 ～宇宙からの地震予知は可能か～」 (行事番号11-131)の報告

2012年1月12日(木)、東京都市大学世田谷キャンパス3号館4階メモリアルホールにて宇宙サロンが開催されました。今回は、震災に対する国民の意識が高まる中、宇宙からの地震予知の可能性について、日本の地震予知研究の第一線でご活躍の5名の専門家にご講演を頂きました。

(1) 初めに東京大学名誉教授(前東海大学教授)の上田誠也氏より、「地震予知研究の現状とこれから」と題して、地震予知研究の総括をして頂きました。地震予知とは何か、地震予知にはどのような技術があるか、日本における地震予知研究が何故難しいかということなどについて解説して頂きました。

(2) 次に、東海大学地震予知研究センター長の長尾年恭氏より、「日本の地震予知研究体制と電磁氣的地震予知研究」と題してご講演いただきました。地震の短期・直前予知のためには、様々な前兆(先行)現象の中でも特に電磁氣的現象の観測が重要であること、そのために世界的な研究グループが既に活動を進めていることなどについてご説明頂きました。

(3) 東京学芸大学物理学科助教の鴨川仁氏からは、「世界の地震予知研究最前線～ギリシャ・ロシア・台湾・フランス～」と題してご講演いただきました。各国との共同研究の中から、地震が地下だけでなく、大気圏や電離層にまで影響を与えている可能性が観測によって捉えられつつあることをご紹介頂きました。

(4) 台湾国立成功大学教授(前宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所教授)の小山孝一郎氏からは、「地震の電離圏への影響～新しい研究分野～」と題して、地震発生と電離圏の変化との関連性について解説頂きました。このような電離圏の変化をより正確に把握するためには、複数の小型衛星による系統的な観測が重要であることを力説して頂きました。

(5) 最後に、宇宙航空研究開発機構地球観測研究センター主任開発員の児玉哲哉氏より、「世界の地震電磁気観測衛星の動向と小型衛星群:ELMOS Constellationの提案」と題して、全地球規模で電離圏～大気圏の時空間的データを取得する必要性があること、そのためには提案しているような小型衛星群による観測が不可欠であることなどについて解説頂きました。

宇宙サロンの参加者は36名でした。終了後のアンケート結果(回答18名)から、「講演は有意義」、「開催時期および参加費は適切」との多くの回答を頂きました。



講演の様子

以上